

## 輸出品目別レポート（ナマコ、ホヤ、水産練り製品）

### 〔ナマコ〕

#### ■品目説明

ナマコは、ヒトデやウニと同じ「棘皮（きょくひ）動物」に分類される。日本や中国では古来よりナマコを食用しており、日本ではコリコリとした独特の食感を楽しむ食べ方として生食や酢物、乾物（イリコ）で、また内臓を塩辛（コノワタ）として食べる。中国では乾燥させた干しナマコとして利用するのが一般的である。「海の黒いダイヤ」や、海の高麗人参を意味する「海参（ハイシェン）」と呼ばれ、中華料理の高級食材として利用される。

ただ、ナマコは移動性が低く、限られた沿岸域の資源であるため、地域の漁業実態に応じた適切な資源管理を実施する必要がある。一方、生産・輸出の拡大に向けては、種苗放流や増養殖を実用化・普及する必要があるとされる（内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出力強化戦略」（平成28年5月））より）。資源管理の実施にあたっては、地域の資源・漁業状態に応じた禁漁期間（産卵期）の設定、総漁獲量の制限、小型個体の再放流などによる資源の維持などが必要とされてきた。

2024年のナマコ類の漁獲量は、5,200トン（前年比10.3%減）、北海道が1,700トン、青森が900トンだった（出所：農林水産省「令和6年漁業・養殖業生産統計」）。北海道南西部檜山地方（ひやま漁業協同組合）は、干しナマコを「檜山海参（ひやまはいしょん）」として、地理的表示（GI）登録をしている。

なお、2022年12月に施行された「特定水産動植物等の国内流通の適正化等に関する法律（水産流通適正化法）」により、ナマコを含む特定第一種水産動植物の輸出には、輸出通関時に適法に漁獲されたことなどを示す証明書の添付が必要となっている。詳細は水産庁「輸出入に係る証明書の交付申請について」や、ジェトロビジネス短信「水産流通適正化法が12月1日施行、輸出時に適法漁獲等証明書が必要に（日本）（2022年12月01日）」を参照のこと。

#### ■輸出概況

日本の2023年ナマコ輸出は前年比13.8%減の1億3,758万ドル、数量ベースでは同22.9%減の400トンとなっている。乾燥や調製品での輸出が多い。主要輸出相手国別にみると、輸出先の首位（金額ベース）は香港で前年比3.1%減の6,871万ドル（シェア44.9%）、数量ベースでは5.7%増の129トン（シェア32.2%）となっている。一方、2位は中国で前年比23.1%減の5,670万ドル（シェア41.2%）で、減少はしている。

ただし、2023年8月24日から実施された日本のALPS処理水海洋放出を受けて、中国は同日から原産地を日本とする水産物（食用水生動物を含む）の輸入を全面的に停止した。

その後 2025 年 5 月 28 日に中国向け輸出再開に必要な技術的要件について日中両国が合意し、同年 6 月 29 日より原産地の福島県、群馬県、栃木県、茨城県、宮城県、新潟県、長野県、埼玉県、東京都、千葉県の 10 都県を除く日本産水産物（食用水生動物を含む）の輸入が条件付きで再開している（出所：農林水産省「日本産水産物の中国向け輸出再開に必要な技術的要件について合意しました」2025 年 5 月 30 日、ジェトロビジネス短信「中国、日本産水産物の輸入を一部再開（中国、日本）、2025 年 6 月 30 日）。

最新の原発規制については、農林水産省「東京電力福島第一原子力発電所事故及び ALPS 処理水の海洋放出に伴う諸外国・地域の輸入規制への対応」を参照のこと。

なお、2024 年のナマコ（調製）の輸出額は 105 億 100 万円（同 38.0% 減）となった。（出所：農林水産省「令和 7 年（2024 年）農林水産物・食品の輸出額」）ALPS 処理水放出により、中国が日本産水産物の輸入を規制したことが主な減少要因とされる。

▼表 1：日本のナマコ輸出

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	127,189,658	304	70,914,789	122	68,719,386	129	△ 3.1	5.7
中国	18,222,723	324	73,696,244	338	56,704,974	223	△ 23.1	△ 34.0
台湾	16,376,205	54	11,483,877	45	8,278,029	37	△ 27.9	△ 17.8
シンガポール	1,507,281	6	1,698,339	8	1,757,314	6	3.5	△ 25.0
韓国	292,036	32	267,338	4	826,159	4	209.0	0.0
全世界	164,396,349	859	159,662,451	519	137,587,227	400	△ 13.8	△ 22.9

注：対象はHSコード 0308.11、0308.12、0308.19、1605.61

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

## ■海外事情

### ●香港

香港における 2023 年のナマコの輸入は前年比 12.1% 増の 2 億 1,798 万ドルとなった。数量ベースでは同 0.3% 増の 3,924 トン。主要輸入相手国の首位は日本で前年比 0.1% 減の 7,240 万ドル、数量ベースで同 5.6% 増の 131 トンとなっている。次いでスリランカが前年比 52.5% 増の 1,898 万ドルとなった。

▼表2：香港のナマコ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	108,576,133	300	72,488,886	124	72,409,628	131	△ 0.1	5.6
スリランカ	10,950,375	218	12,448,702	334	18,982,920	333	52.5	△ 0.3
ニカラグア	11,306,382	312	9,582,387	266	15,792,118	444	64.8	66.9
オーストラリア	11,275,346	163	9,638,773	119	11,343,637	155	17.7	30.3
台湾	15,578,469	50	14,444,623	31	10,775,409	34	△ 25.4	9.7
全世界	230,566,837	3,117	194,373,201	3,913	217,985,461	3,924	12.1	0.3

注：対象はHSコード 0308.11、0308.12、0308.19、1605.61

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

ナマコ（調製）は日本から香港への輸出額が多い品目の一つとなっており、2024年の品目別内訳では4位の91億円となっている（出所：農林水産省「[令和6年（2024年）農林水産物・食品の輸出実績（国・地域別）](#)」）。

ただし、香港政府は2023年8月24日以降、10都県（福島県、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、長野県、新潟県）の水産物（生きている、冷凍、冷蔵、乾燥、またはその他の方法で保存されたすべての水産物）・海塩・海藻（加工品を含む）の輸入停止を発表し、日本の5県（福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県）から輸出される食品のうち、水産物については日本の政府機関が発行する放射性物質検査証明書の提出が求められている。詳細は農林水産省「[東京電力福島第一原子力発電所事故及びALPS処理水の海洋放出に伴う諸外国・地域の輸入規制への対応](#)」を参照のこと。

輸入はほとんどが乾燥ナマコをはじめとする加工品の状態だ。香港では乾燥ナマコは贅沢な贈答品として認知されている。乾燥ナマコは健康によいイメージがあり、香港の中間層や富裕層の間では一般的に消費される食材で、一定のニーズはある。

### 〔ホヤ〕

#### ■品目説明

ホヤは、脊椎（せきさく）動物の原点とされる「原索（げんさく）動物」に分類される。見た目が似ていることから「海のバイナップル」とも呼ばれる。

ホヤは、「甘味、塩味、苦味、酸味、うま味」の五味すべてを持つ珍しい食材とされており、古来より東北地方を中心に日本で食べられてきた。農林水産省「[にっぽん伝統食図鑑](#)」では、「刺身や焼きほやの他、酢の物、塩辛、天ぷら、炊き込みご飯、しゃぶしゃぶなどにして食される。時期を同じくして旬を迎えるきゅうりと一緒に食べるのも定番である」と紹介されている。

ホヤは、韓国において食文化として定着しており、人気の高い食材であり、日本からの輸出はほぼ全量が韓国向けである。主要生産地は北海道、宮城県、岩手県である。東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、韓国は福島県、宮城県、岩手県、青森県、群馬県、栃木県、

茨城県、千葉県の8県からのすべての水産物について2013年9月9日から輸入を禁止している（出所：ジェトロポータルサイト「[韓国：水産物](#)」、農林水産省「[東京電力福島第一原子力発電所事故及びALPS処理水の海洋放出に伴う諸外国・地域の輸入規制への対応](#)」）。韓国の輸入規制の撤廃に向けた対応が必要であるとしている（内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「[農林水産業の輸出力強化戦略](#)」（平成28年5月）より）。

2024年のホヤ類の収穫量は前年比33.8%の4,700トン、北海道が2,100トン、宮城県が1,900トン、岩手県が800トンとなった（農林水産省「[令和6年漁業・養殖業生産統計](#)」海面養殖業魚種別収穫量より）。養殖ホヤの国内生産量は、東日本大震災の被害により減少していたところ、近年回復傾向にある。

主な関連団体として、[宮城ほや協議会](#)などがある。

## ■貿易概況

2023年のホヤの輸出動向をみると、金額は前年比80.5%減の129万ドル、数量は75.6%減の771トンであった。統計上、これまで全量が韓国向け輸出であったが、2020年からベトナム向け輸出も一時加わったときがあった。今はまた全量が韓国向けに戻っている。

▼表3：日本のホヤ輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
韓国	7,134,645	3,352	6,629,238	3,164	1,294,865	771	△ 80.5	△ 75.6
全世界	7,134,645	3,352	6,629,238	3,164	1,294,865	771	△ 80.5	△ 75.6

注：対象はHSコード 0308.90-110

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

## ■海外事情

### ●韓国

韓国におけるホヤ輸入動向をみると、2023年の輸入額は前年比77.2%減の150万ドル、2023年については全量が日本からの輸入となっている。ホヤは刺身のほか、チャンジャ、ビビンバ、キムチ、冷麺などでも使われる。供給面では前述のとおり、主要産地である宮城県産、岩手県産の解禁が待たれる。

▼表4：韓国のホヤ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	7,345,288	3,316	6,565,798	3,025	1,501,319	833	△ 77.1	△ 72.5
中国	11,033	8	11,996	10	0	0	△ 100.0	△ 100.0
全世界	7,356,321	3,324	6,577,794	3,034	1,501,319	833	△ 77.2	△ 72.5

注：対象はHSコード 0308.90-1019（ほや単独のHSコードではない）

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

## 〔水産練り製品〕

## ■品目説明

水産練り製品には、ちくわ、かまぼこ、はんぺん、つみれ、魚肉ソーセージなどがある。カニカマを除き、海外において食べる文化が十分に普及していないため、輸出の拡大に向けては日本の食文化の普及が必要である。一方、加工によって様々な製品を生産することが可能であるため、輸出先国・地域のニーズに応じた商品開発が課題（「第二のカニカマ」の開発）である。また加工食品であるため、輸出先国・地域によっては、水産加工施設の高度衛生管理（HACCPなど）の対応が必要である（[「農林水産業の輸出力強化戦略（平成28年5月）」](#)）。

ちくわ・かまぼこ類の2024年日本の生産量は前年比18.7%増の43万4,000トンで大幅に上昇した。（詳細は、農林水産省「[令和6年度食品製造業動態調査](#)」）。

主な業界団体として、[全国水産加工業協同組合連合会](#)、[一般社団法人日本かまぼこ協会](#)などがある。また、[一般社団法人大日本水産会](#)などがあり、[水産物・水産加工品輸出拡大協議会](#)が積極的に日本産水産物のプロモーション活動や海外・国内における輸出商談への支援などを実施している。

## ■貿易概況

2023年、日本の水産練り製品輸出は、前年比21.2%減の7,399万ドル、数量ベースで同19.6%減の1万699トンとなった。輸出相手国の首位は米国で前年比32.0%減の2,217万ドル、数量ベースで28.4%減の3,047トンとなった。次いで香港向けが前年比8.9%減の1,820万ドル、数量ベースで同10.7%減の2,749トンとなった。

なお、2024年の練り製品の輸出額は112億7,100万円（同8.1%増）となった（出所：農林水産省「[令和7年（2024年）農林水産物・食品の輸出額](#)」）。

▼表5：日本の練り製品輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
米国	36,698,813	4,331	32,599,624	4,255	22,178,565	3,047	△ 32.0	△ 28.4
香港	24,304,834	3,372	19,981,191	3,077	18,207,264	2,749	△ 8.9	△ 10.7
台湾	9,307,506	1,299	9,650,847	1,512	9,200,761	1,454	△ 4.7	△ 3.8
中国	15,480,712	1,994	12,187,886	1,754	6,655,919	946	△ 45.4	△ 46.1
韓国	2,270,577	448	3,859,254	796	4,435,493	828	14.9	4.0
全世界	102,333,411	12,981	93,738,389	13,303	73,998,920	10,699	△ 21.1	△ 19.6

注：対象はHSコード 1604.20-110、1604.20-190

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

## ■海外事情

## ●米国

米国における2023年の水産練り製品輸入額は、前年比0.5%減の2億5,375万ドル、数量ベースで同2.2%減の5万8,613トンとなった。国別にみると、1位はインドで、金額が前年比22.7%増の5,381万ドル、2位はタイで同6.4%減の5,369万ドル、日本は3位で同28.1%減の2,475万ドルとなった。

▼表6：米国の練り製品輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
インド	32,449,490	8,770	43,869,385	10,696	53,812,996	11,765	22.7	10.0
タイ	54,658,560	14,682	57,360,222	14,626	53,693,692	13,649	△ 6.4	△ 6.7
日本	36,782,644	4,913	34,447,740	4,828	24,752,207	3,499	△ 28.1	△ 27.5
韓国	16,560,762	3,900	19,699,451	4,436	20,532,293	4,587	4.2	3.4
ベトナム	10,814,732	3,485	15,824,805	4,215	18,377,673	5,375	16.1	27.5
全世界	243,362,156	58,871	254,947,385	59,908	253,753,133	58,613	△ 0.5	△ 2.2

注：対象はHSコード 1604.20

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

米国消費者へのアンケート調査によると、水産練り製品のうち、家庭で食べたもの/飲食店で食べたもののいずれも、かにかまぼこが最多で、次点では魚肉ソーセージが続く。「利便性が高い」「栄養価が高い」「風味が良い」「本物のカニよりも安価で使いやすい」といった利点があり、健康面でも良質なタンパク源でヘルシーな食材とされ、一部のフレキシタリアン（柔軟な菜食主義者）には、肉の代替品の食材とみなしている。かにかまぼこや魚肉ソーセージは「サラダと合わせて食べる」という回答が最多である一方、つみれ、かまぼこ、ちくわは「スープに入れて食べる」が最多であった。

いずれの水産練り製品も、「とても食べたい」「やや食べたい」と回答した理由としては、「おいしそう」「品質が良さそう」などが上位に挙げられ、特にかにかまぼこについては「食

感が良さそう」「手軽に食べられそう」も上位に挙がっている。一方で、「どちらともいえない」「あまり食べたくない」「全く食べたくない」と回答した理由では、「おいしくなさそう/おいしくない」「見た目が悪そう」などが挙げられた。

(JFOODO「アジア6カ国・地域及び米国における農林水産物・食品8品目についての流通実態及び消費者動向」水産加工品、2022年7月)

また、現地の輸入・卸売業者へのヒアリングによれば、マグロ・サーモン・カニカマが人気で、カニカマの多くは、日本産を買い付けているとのことだった。また東海岸と西海岸では食の趣向に違いがあり、すしネタで使うことが多い東海岸ではステイックタイプのカニカマが、スシロールで使うことが多い西海岸はミンス状のカニカマがよく売れているというヒアリング結果もあった(米国PF品目別レポート(水産物)、2025年3月更新)。

### ●香港

香港における2023年の水産練り製品輸入額は、前年比8.5%増の9,840万ドル、数量ベースでは4.3%増の2万7,026トンとなった。主要輸入相手国別にみると、首位は中国で前年比45.4%増の4,729万ドル(シェア48.0%)、数量ベースで同15.4%増の1万7,167トン(同63.5%)となった。2位は日本で前年比14.6%減の1,706万ドル、数量ベースで同11.2%減の2,388トンとなった。

▼表7：香港の練り製品輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	33,146,456	12,854	32,529,030	14,873	47,298,088	17,167	45.4	15.4
日本	22,836,469	2,942	19,987,536	2,689	17,066,266	2,388	△14.6	△11.2
台湾	16,876,944	3,567	15,774,815	3,241	13,693,637	2,753	△13.2	△15.1
マレーシア	6,904,475	2,268	7,666,444	2,405	8,270,290	2,395	7.9	△0.4
タイ	8,406,626	2,137	8,535,307	1,666	6,163,943	1,419	△27.8	△14.8
全世界	95,687,097	24,933	90,659,436	25,906	98,409,205	27,026	8.5	4.3

注：対象はHSコード 1604.20

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

### ●そのほか

- ・台湾への農林水産物・食品の輸出に関するレポート 品目別レポート(水産物) (2024年4月)
- ・EUPF(フランス)品目別(水産物)カントリーレポート (2024年3月)
- ・シンガポールP F品目別(水産物)カントリーレポート (2024年3月)
- ・香港P F品目別(水産品)カントリーレポート (2024年11月)
- ・香港PF深堀レポート「KAIZENを試み市場に挑戦する—日本産水産物を例として—」

(2023年3月)

- ・ベトナムP.F品目別（水産物）カントリーレポート（2024年3月）
- ・ジェトロ地域・分析レポート「紀文食品、水産練り製品の欧州向け輸出への挑戦（EU）」（2020年3月27日）
- ・ジェトロ 世界は今－JETRO Global Eye「スペイン発！ シーフード特集1 海外でウケる？ 冷凍すしとおでん」（2022年6月16日）

ジェトロ特設ページ「ALPS処理水の処分に伴う輸出等の対策に関する特別相談窓口および各国・地域の動向について」では、各国・地域の動向について幅広い情報提供を行っている。

水産物・水産加工品輸出拡大協議会「海外マーケット調査資料」にて、北米、中東、中国、香港、台湾、メキシコなどの海外マーケット調査レポートがある。

ジェトロ「現地市場価格調査」では、ナマコ（調製）、魚肉製品（かまぼこ・カニカマ・さつま揚げ）の主要都市における市場価格をまとめている。

ナマコ、ホヤ、練り製品を含む水産物の輸入規制、輸入手続きに関して、ジェトロのポータルにて、香港、台湾、韓国、中国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、ミャンマー、UAE、サウジアラビア、米国、カナダ、ブラジル、メキシコ、オーストラリア、EU、英国、ロシアをまとめている。

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

#### 【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。